亀田ニュース

2018
No.902
11月15日号

●〒296-8602 千葉県鴨川市東町929　●TEL04(7092)2211㈹　●発行責任者 亀田隆明　●作成 広報企画室　●毎月1日・15日発行

「多発性のう胞腎外来」をはじめました

10月から腎臓高血圧内科に「多発性のう胞腎外来」(第3木曜・午後)という専門外来を開設いたしました。

多発性のう胞腎は，常染色優性遺伝で50%の確率で遺伝する病気です。腎臓の能力が徐々に低下し，約80%の方は腎代替療法(血液透析，腹膜透析，腎移植)が必要となります。難病指定の疾患であり，条件を満たせば難病申請をすることができます。

これまで有効な治療がありませんでしたが，2014年より「サムスカ(一般名トルバプタン)」という薬が保険適用となりました。サムスカを内服すると尿がたくさんでるため水分を多く摂取する必要がありますが，難病かつ遺伝病に対して薬ができたことはとても画期的です。サムスカを開始する時は，3泊4日程度の入院が必要になります。ただし，全員にサムスカが適応となる訳ではありません。サムスカの適応条件は，腎臓が大きいこと，腎臓の大きくなるスピードが速いこと，この2つを満たすことが条件となります。

同外来ではサムスカの適応があるか調べさせていただくほか，血圧が高いと腎臓の能力が早く低下しますので，血圧も一緒に診させていただきます。また，この病気にはさまざまな合併症がありますが，最も重要な合併症が脳動脈瘤です。全員に起こるわけではありませんが，特にご家族に脳動脈瘤がある方はより注意が必要です。放置すると命に関わることがあるため，画像検査(MRI)で調べさせていただきます。

多発性のう胞腎でお困りの方は，どうぞ気軽に腎臓高血圧内科までご相談ください。よろしくお願いいたします。

腎臓高血圧内科 部長　鈴木 智

がん就労支援講演会のご案内

抗がん剤治療の副作用と上手に付き合う方法や，仕事とお金の話など，がんになっても就労継続ができる方法を一緒に考えてみませんか？

11月20日(火)午後1時半から亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホールを会場に，「がん就労支援講演会」を開催いたします。どうぞご参加ください。(定員50名，参加費無料)

インフルエンザワクチン接種で予防を

毎年，冬から春はインフルエンザの流行シーズンです。流行前に予防接種を受けることで，インフルエンザを発症する可能性を減らし，もし発症しても重症化を防ぎます。特に高齢の方や基礎疾患(心臓・肺・腎臓などの病気)をお持ちの方は重症化しやすいため，ワクチン接種をおすすめいたします。ワクチン接種から実際に効果を発揮するまで2週間程度かかります。お早めに接種ください。**当院の予防接種期間は【12月26日(水)まで】となります。**

また，ワクチン接種する際，インフルエンザと他のワクチンを同時に接種することも可能です。今年は風しんが猛威を振るっているため，「ついでに風しんのワクチンも一緒に接種してほしい」などご要望がありましたら，医師までご相談ください。

ワクチン接種のご予約は予約センター(☎04-7099-1111/午前8時～午後5時〔日曜・祝日除く〕)まで。

地域連携小児夜間・休日診療について

地域の小児科の先生方と連携を取り，夜間や休日で小児の急病の場合に，常時診療可能な体制を整えております。受診される際は，事前に代表番号(☎04-7092-2211)まで電話連絡をお願いいたします。

＜診察＞・月曜日～金曜日　午後6時～午前8時
・土曜日　正午～午前0時
・休日

ペットラウンジOne閉店のお知らせ

愛犬のトリミング，一時預り所「ペットラウンジOne(ワン)」(鴨川市西町1040-1，☎04-7098-2256)は諸般の事情により**12月29日(土)をもちまして閉店する事になりました。**長らくご愛顧いただき，誠にありがとうございました。

なお，**ポイントカードの利用期限は最終営業日の12月29日(土)まで**となります。貯まっているポイント数に応じてご利用施術代から差し引かせていただきます。ただし，ポイントの現金返金はできませんので予めご承知おきください。

第5話　便失禁にはどんな検査をするのでしょうか？

はじめに

便失禁とは，おしりの筋肉や神経がうまく働かないなど排便を正常にコントロールできなくなる病気です。今回は便失禁の治療をする上で必要な検査についてお話しします。

外来ではまず患者さまの排便状況を詳しく問診をしていきます。その結果さらに専門的な検査を行っていきます。検査には**肛門内圧検査，直腸感覚検査，肛門管超音波検査，排便造影検査**があります。

肛門内圧検査

この検査は先端にセンサーのついた細い管をおしりの中に入れ，肛門のしまりを測る検査です（図1）。おしりに力をいれず安静にしている時のしめる力（肛門静止圧）と便を我慢するように力をいれて肛門をしめた時の力（肛門随意収縮圧）をそれぞれ測定します（図2）。

図1　肛門内圧カテーテル
先端の膨らんでいる部分が圧センサーになっている

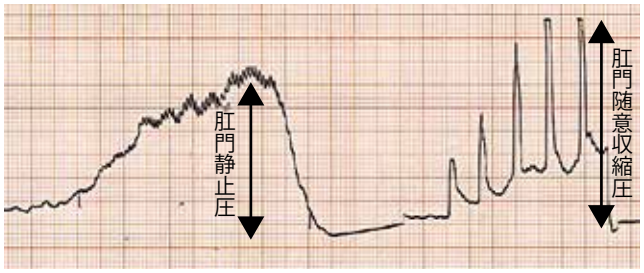

図2　肛門内圧検査

直腸感覚検査

肛門の奥，直腸内に入れた風船を膨らませて，どのくらいで排便したい感覚になるのか，どのくらい便意を我慢できるかを測定する検査です。先の肛門内圧検査と一緒に行います。

肛門管超音波検査

超音波検査によって肛門の筋肉（肛門括約筋）に損傷がないかを確認する検査です。（図3）

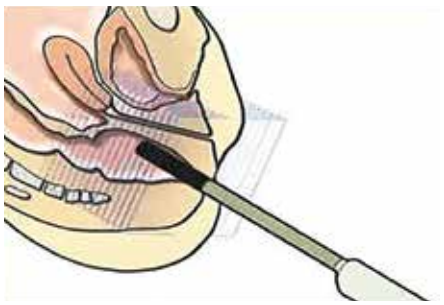

図3　肛門管超音波検査

排便造影検査

肛門内に擬似便と呼ばれるバリウムを入れ，排出するところをレントゲン撮影する検査です。便失禁の原因には肛門近くの腸管壁がたるみ肛門内へ落ち込む（直腸重積症）や肛門の外にでてくる（直腸脱）があり，これらを見つけることができます（図4）。

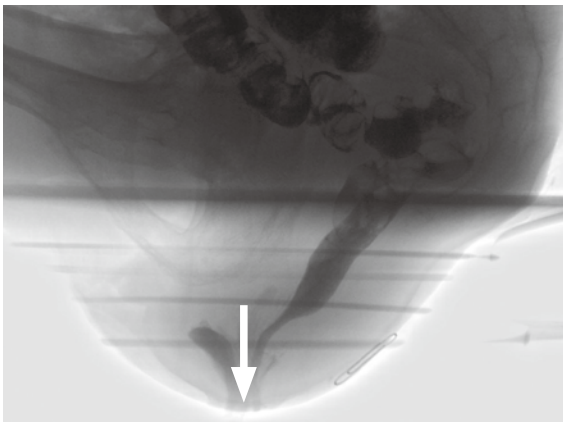

図4　直腸重積
黒い部分が映し出された直腸
矢印が直腸の壁が肛門内へ落ち込んだ部分

便失禁の患者さまがどんな肛門の障害があるのか検査で調べることは有効な治療を見つけてゆく過程でとても大切なことになります。次回は便失禁の治療についてお話しします。

医師紹介

くろだ　ひろかず
黒田　浩一　医師

①担当科目
②診療における得意分野
③趣　味
④ひと言

①感染症科
②呼吸器内科，感染症科
③旅行，音楽鑑賞
④丁寧な診察とわかりやすい説明を心がけます

Kameda Medical Center